

第 12 次計画の指標項目の設定について

＜指標項目の設定方針＞

- ・ 1 ～ 4 の基本的方向性が目標とするアウトカム(目指すべき姿)を実現するために、指標項目を設定する
- ・ 可能な限り成果指標を設定するが、成果の把握が困難である場合は施策の実施状況を把握する指標項目を設定する
- ・ 指標項目については、公表可能なものから選択し、基本的方向性ごとに 2 つずつ設定する
- ・ 基本的に初期値は令和 7 年度値、目標値は令和 13 年度値とする

①「基本的方向性 1 県内産業の持続的な成長を支える産業人材の育成の推進」

・アウトカム(目指すべき姿)：企業の人材ニーズを捉えたものづくり産業の生産現場を支える人材の育成

指標項目	設定理由	初期値	目標値	目標値設定理由
職業能力開発校の修了者の就職率	職業能力開発校での訓練が就職につながったか評価するもの	96.6%	96.7%	「趨勢外挿型」過去 3 年の平均から算出
職業能力開発校の就職者の 1 年以内の離職率	職業能力開発校での訓練が就職後の定着につながったか評価するもの	4.6% (R6 年度卒)	9.1% (R12 年度卒)	「趨勢外挿型」過去 3 年の平均から算出

・「職業能力開発校での訓練→就職→定着」の一連の成果を把握する指標として設定。

	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R5-R7 (3 か年平均)
職業能力開発校の就職率(県)	96.5%	97.1%	96.6%	96.7%
職業能力開発校の就職率(全国値)	95.3%	95.0%	—	—

※県内の職能校の就職率は全国と比較しても高水準であることから、引き続きその水準を維持しようとするもの。

	R4 年度卒	R5 年度卒	R6 年度卒	R4 卒-R6 卒 (3 か年平均)
職業能力開発校就職者の 1 年以内の離職率	11.7%	11.0%	4.6%	9.1%

※R7 年度値(初期値)は過年度と比較して低い離職率であったため、目標値が初期値よりも低くなっているが、3 か年平均である 9.1%は全国の新規学卒者の 1 年以内の離職率(高卒者は 16.6%、大卒者は 10.1%)と比較して低いことから、引き続きその水準を維持しようとするもの。

②「基本的方向性 2 時代や産業構造の変化に対応できる産業人材の育成」

・アウトカム(目指すべき姿)：求められるスキルに対応した人材の育成、労働者の自律的キャリア支援

指標項目	設定理由	初期値	目標値	目標値設定理由
在職者向け訓練の受講者数	在職者に対して職業能力開発をどのくらい提供したか評価するもの	195 人	209 人	「趨勢外挿型」過去 3 年の平均から算出
リスキリング・リカレントを目的としたプログラム件数	リスキリング・リカレント教育の機会をどの程度提供したか評価するもの	76 件	82 件	「政策意思型」毎年 1 件ずつ増加するものとして設定

※在職者のスキル向上やキャリア形成等の成果指標については、データの収集が困難であることから、実施状況を把握する指標を設定。

	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R5-R7 (3 か年平均)
在職者向け訓練の受講者数	227 人	206 人	195 人	209 人

※再編整備後においても現在の受講者数の規模を維持しようとするもの。

③「基本的方向性 3 県民一人ひとりが活躍できる職業能力開発の充実」

・アウトカム(目指すべき姿)：価値観等に応じた多様な働き方の選択ができ、誰もが活躍できる職業能力開発

指標項目	指標項目・設定理由	初期値	目標値	目標値設定理由
離職者向け訓練の修了者の就職率	女性、中高年齢者、非正規雇用者を含めた離職者等に対する支援の評価	79.4%	77.8%	「趨勢外挿型」過去3年の平均から算出
宮城障害者職業能力開発校の修了者の就職率(1年課程訓練)	障害者に対する支援の評価	86.4%	77.7%	「趨勢外挿型」過去3年の平均から算出

※就職後の定着率については、データ収集が困難であることから、就職率を指標として設定。

	R5年度	R6年度	R7年度	R5-R7(3か年平均)
離職者向け訓練修了者の就職率(県)	77.4%	76.6%	79.4%	77.8%
離職者向け訓練修了者の就職率(全国値)	73.6%	72.8%	-	-

※R7年度値(初期値)は過年度と比較して高い就職率であったため、目標値が初期値よりも低くなっているが、3か年平均である77.8%は国の目標値(75%)を超えており、引き続き高い就職率を維持しようとするもの。

	R5年度	R6年度	R7年度	R5-R7(3か年平均)
宮城障害者職業能力開発校の就職率	76.0%	70.8%	86.4%	77.7%
障害者職業能力開発校の就職率(全国値)	68.9%	70.9%	-	-

※R7年度値(初期値)は過年度と比較して高い就職率であり、目標値が初期値よりも低くなっているが、3か年平均である77.7%は国の目標値(70%)を超えており、また、障害者職業能力開発校は修了者の人数規模が小さいため、年度により就職率が上下することから、3か年平均を目標値としたもの。

④「基本的方向性 4 技能の継承と振興」

・アウトカム(目指すべき姿)：技術・技能の若者への継承、技能者の意欲向上(ものづくり離れ解消)

指標項目	指標項目・設定理由	初期値	目標値	目標値設定理由
技能検定合格者数	技能士として認定された人の規模に対する評価	1,133人	1,133人	「趨勢外挿型」過去3年の平均から算出
クラフトマン21事業の参加者数	高校生への技術・技能伝承に対する評価	5,572人	5,090人	「趨勢外挿型」過去3年の平均から算出

	R5年度	R6年度	R7年度	R5-R7(3か年平均)
技能検定合格者数	1,098人	1,168人	1,133人	1,133人

※生産年齢人口が減少する中で、引き続き技能士となる人数を維持しようとするもの。

	R5年度	R6年度	R7年度	R5-R7(3か年平均)
クラフトマン21事業参加者数※	4,671人	5,027人	5,572人	5,090人
参加校数	13校	13校	12校	13校
参加企業数※	212企業	229企業	258企業	233企業

※は延べ数

※生徒数が減少する中で、引き続き事業への参加者数を維持しようとするもの。